

各位

会社名 株式会社ヤマダ電機
 代表者名 代表取締役社長 一宮 忠男
 (コード番号 9831 東証第一部)
 問合せ先 取締役兼執行役員専務 岡本 潤
 (TEL. 027-345-8807)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成22年4月26日開催の取締役会において、以下のとおり、最近の業績の動向等を踏まえ、平成22年2月4日の平成22年3月期第3四半期決算発表時に開示した平成22年3月期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)の業績予想を修正することとしましたので、お知らせいたします。

1. 平成22年3月期の通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 1,968,000	百万円 68,700	百万円 81,700	百万円 43,300	円 銭 459.92
今回修正予想(B)	2,016,100	87,300	101,500	55,800	592.69
増減額(B-A)	48,100	18,600	19,800	12,500	—
増減率(%)	2.4	27.1	24.2	28.9	—
(参考)前期連結実績 (平成21年3月期)	1,871,828	49,522	64,604	33,207	353.32

2. 修正の理由

売上高については、消費者のニーズにあわせた販促を強化し大きな効果を上げました。更に、政府エコポイント制度の追い風や、エコポイント基準変更前のテレビ駆け込み需要等により、対象商品が好調に推移しました。パソコン本体が新OSや新型CPU搭載等により復調傾向に向かいました。その他、新型インフルエンザの流行等による健康意識の高まりから、空気清浄機や空気清浄機能付加湿器、イオン発生器等が好調に推移しました。国をあげての地球環境問題への取り組みによる意識の高まりから、IHクッキングヒーター、エコキュート、太陽光発電システム等も好調に推移しました。その結果、予想を大きく上回り、国内家電量販店として初の売上高二兆円を達成する見込みです。

利益面では、前述のとおり売上高が予想を上回って伸長したことに加え、これまで全社をあげて取り組んできた3つの経営改革「店舗効率向上改革」「キャッシュ・フロー改善向上改革」「経費削減改革」が大きな成果をもたらし、計画を大幅に上回る見込みであります。

【業績予想に関する留意事項】

上記の予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後の様々な要因により、予想数値とは異なる可能性があります。

以上